

橿原考古学研究所紀要



—— 第 4 8 冊 ——
2025



橿原考古学研究所紀要



—— 第 48 冊 ——
2025

序

橿原考古学研究所の大きな役割の一つは、奈良県内の遺跡を発掘し、その成果をもとに日本列島の文化を東アジアひいては世界の歴史に位置づけることです。したがって、当研究所の設立当初から、世間の耳目をあつめる発掘調査はもとより、地味で小規模の発掘調査を積み重ねることによってようやく重要な成果が明らかになるものまで、膨大な量の発掘調査を繰り返してきました。

このような過去の発掘調査の記録と出土資料は、発掘調査の時点で一定の評価がなされていますが、考古学の進歩と発展し続ける科学分析技術により再評価が必要なことは言うまでもありません。今回提出された5本の論攷のうち、纏向遺跡出土の繊維製品を藁とした森岡所員らの論文、飛鳥京跡の発掘調査成果を再検討することで、当該地における古墳時代の土地利用に焦点をあてた中野所員らの論文は、このような方向性を実践した力作です。

加えて、前田所員の論文は、自らの発掘調査で出土した資料を何度も見直して作り上げたものです。過去における他者が発掘した資料だけではなく、自身の発掘資料とその解釈を自省し続ける姿勢は、研究者にとって肝要なことです。

岡田所員らの考察は、発掘調査で出土した資料を一次資料とするならば、発掘調査以外の採集による二次資料を過去の発掘調査成果と併せて検討し、古代寺院や神武天皇陵と陵寺について問題提起をした意欲作です。

さらに、北山所員らもこれまでおこなってきた自身の研究を援用して、近年になって附属博物館の展示や博物館活動の一環で取り上げてきた近代遺産を考古学的手法で評価しました。

これら5本の論攷は、当研究所の発掘調査を重視する方針や新たな問題意識を持って研究成果を公表していくという姿勢を示したという点で、面目躍如たるものがあります。

これからも意欲的な研究成果が陸続として掲載されていくよう努めてまいります。

令和7年3月7日

奈良県立橿原考古学研究所
所 長 青 柳 正 規

目 次

序

青柳正規

桜井市纏向遺跡辻地区土坑10出土筒状繊維製品の再検討

—近江・稲部遺跡の集落出土武具との比較研究—…… 森岡秀人・戸塚洋輔・東村純子 …… 1

使用方法からみた近畿地方における古代絵馬祭祀 …………… 前田俊雄 ……31

古墳時代における飛鳥地域の開発の一様相

—飛鳥京跡第34次調査下層遺構出土遺物の再整理から—

…………… 中野 咲・鈴木一議・岩崎郁実・繰納民之・小倉頌子・丸山真史・高橋幸治 …… 45

伝四条遺跡内出土遺物についての考察 …………… 岡田雅彦・木村理恵 …… 69

大阪電気軌道富雄変電所の煉瓦 …………… 北山峰生・鈴木朋美 …… 89

奈良県立橿原考古学研究所紀要

考古學論攷 第 48 冊

令和 7 年 3 月 7 日 発行

発 行 奈良県立橿原考古学研究所

奈良県橿原市畝傍町 1 番地

印 刷 株 式 会 社 明 新 社

奈良県奈良市南京終町 3 丁目 464

ISSN 0287-9271



Proceedings of the
Kashihara Archaeological Institute
STUDIES IN ARCHAEOLOGY
—— NO.48 ——

Kashihara Archaeological Institute
Nara Prefecture 2025

